

令和4年度上大久保中学校だより

上中だより

第5号

令和4年8月26日(金)発行

学校教育目標

「温かい学校 感動あふれる学校」

さいたま市立上大久保中学校

〒338-0824 さいたま市桜区上大久保861-1 TEL.855-3901

<http://kamiokubo-j@saitama-city.ed.jp>

ディズニーリゾートに学ぶ

けんもつ ゆきひこ
校長 監物 幸彦

一昔前は、8月も後半になると暑さは続いているにも関わらず、朝夕の風になんとなく涼しさを感じたものですが、近年は異常気象によりそんな気配を感じる事ができません。甲子園の決勝戦が終わった時、そしてちょうどこの頃テレビ放映される、「2学期直前に宿題に追われるカツオくん」や「宿題が終わらず、ドラえもんに泣きつくのび太くん」「お母さんにしかられるちびまる子ちゃん」が、私にとって、夏休み終了の合図になっています。

さて、3年ぶりの行動制限のない夏休み。久しぶりの帰省や東京ディズニーランドやシーなどのリゾート地を訪れた人もいないのではないでしょうか。実は私はディズニーランドが大好きで、30数年前の大学生時代、東京ディズニーランドが初めて開園した4月15日に徹夜して行ったくらいです。入り口のゲートをくぐると聞こえてくる「小さな世界」のメロディー。そして、早速出迎えてくれるたくさんのキャラクターたち。東京ディズニーリゾートは、不思議な魅力を持っている場所です。ディズニーリゾートを訪れた人は、みんなが普段の日常を忘れ、夢の非日常を体験することができます。その夢の世界に欠かせないのがキャストの存在です。ディズニーリゾートで大切な役割を果たしているキャストのひとつに、掃除を担当する「カストーディアル」がいます。ディズニーリゾートが最も力を入れているのが、「清潔さ」です。費用も一番かけているそうです。昼間のカストーディアルには、各自決められた縄張り？があって、もしゴミが落ちていても15分以内に取り除くように教わります。清掃の基準として教わるのが、「赤ちゃんがハイハイしても汚れないよう」にです。カストーディアルになって最初に教わるのが、あなたがするのは、掃除ではなく掃除という「ショー」だ。という事です。

全てのキャストにそのミッションは浸透しています。ですから、キャストは常に「主体的」に動き、ゲストの笑顔を第一に考えています。開園直後の15分間、入園するゲストの笑顔を見るだけの研修があるほどです。その笑顔に応えたい。それが研修後のキャストのモチベーションとなり、全てのゲストに夢と幸せを提供する「主体的」な動きにつながっているといます。

そんな「主体的」な動きがあるからこそ、ディズニーリゾートは、世界中で愛される存在となったのでしょう。「主体的」の類義語に「自主的」という言葉があります。調べてみると、この二つの言葉は、意味はよく似ているものの、違いもありました。「自主的」とは、やるべき事を誰かに言われる前に自らやること。「主体的」とは、自分で状況を判断して目的を明確にし、自らの責任で最も効果的な行動をとること。つまり、「主体的」とは、やるべき事をやるだけにとどまらず、自分で物事を考え、責任ある行動が求められているのです。ディズニーリゾートに見るキャストの姿は、まさにそれだと言えるでしょう。

ところで、2021年から実施されている学習指導要領の中に、「主体的で対話的で深い学び」というキーワードがあります。子どもたちが人生100年時代を豊かに生きるために、生涯にわたり主体的・能動的（アクティブ）に学び続けるようにすることが大切であると言われていています。私には、その姿がディズニーリゾートでのキャストの仕事ぶりと重なります。ディズニーリゾートのキャストの主体的な判断の一例として、次のような感動的な話があります。

ディズニーランドのレストランに若い夫婦がやってきました。それぞれ食事を注文した後、お子様ランチを注文しました。これに対し、ウェイトレスはマニュアル通りに「大人だけのお客様にはお子様ランチはお出ししておりません」と答えました。2人は顔を見合わせ、大変落胆した表情になりました。これは何かある、そう感じたウェイトレスは「もしご注文できたら、どちら様がお召し上げるおつもりだったのですか？」と聞くと、奥様がこう話始めました。実は、その夫婦には小さな子どもがいて、いつもこのレストランで食事をしていました。ところが、最近、その子が亡くなった。その子を偲び、できれば一緒に食事をしている気持ちになりたいと思って注文したのでした。ウェイトレスは、その話を聞き、「わかりました」と言って注文を受けました。やがて、お子様ランチが運ばれてきました。ここまでは特に感動はしないでしょう。しかし、次にウェイトレスは、同時に幼児用の高いイスを運んで来て、夫婦の間にそっと置きました。夫婦はいたく感動し、涙を流したそうです。

この話を知って以来、このウェイトレスさんが「私が育てたい人間像」になっています。

2学期は生徒の皆さんが活躍できる場所がたくさん用意されています。その一つ一つにどう挑戦していくか、一人ひとりが考え、主体的に取り組んでくれることを期待しています。